

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



### スマートキッズプラス芝公園

子どもたちひとりひとりの思いやアイデアを個性的な形で表現されています。教室では、日頃からシールアートを行う機会が多いことから、たくさんシールを使って作り上げました。

## 子どもたちが新しい集団に馴染むために必要なこと

所長 中村雅子

子どもたちが新しい集団に馴染むために必要なこと、それは、間違いなく、大人の温かいサポートです。家族も園・学校も児童発達支援・放課後等デイサービスも、このことを強く意識して、子どもたちにかかわっていききたいものです。

4月、寒さに耐えてきた桜が満開となり、草木が一斉に芽を吹く季節が訪れます。自然界ではこの時期、植物たちが急速に成長しますが、時を同じくして、子どもたちも入学や進級という大きな変化の中で新たなスタートを切ります。しかし、人間の成長は植物のように一方向に進むわけではなく、個々のペースやタイミングが異なります。確かに人間も自然の一部ではありますが、子どもたちは自分の意思で身体を動かし、時には感情のコントロールをしながら、決められた学級の中で多様な仲間と共に過ごしていかなければならないのです。

大人たちは、子どもたちに新たなスタートを切ることを期待し、年齢に応じた成長を促すことを望みますが、それが必ずしも順調に進むわけではありません。地域の祭りや遊びの場が減少し、人々のつながりが薄くなる中で、子どもたちは異なる背景や価値観を持つ他者と調和を保つスキルを十分に身につけていないことが背景にあります。このため、多くの子どもたちは、新しい環境に馴染む過程で戸惑いや不安を感じ、周囲の様子を伺いながら、新しい集団に加わっていくことが多いでしょう。

このような時期にこそ、園・学校や児童発達支援・放課後等デイサービスにおいて、指導する大人たちが温かな心と鋭い感性をもって一人ひとりの子どもに気を配り、その子が安心できる居場所を提供することが極めて重要です。このサポートが、その後の一年間を安定したものにするための大きな力となるのです。

子どもたちが新しい集団に馴染むためには、まず「自分らしさ」を大切にしながらも、他者との調和を学ぶことが重要です。最初は戸惑いや不安を感じることもありますが、それを乗り越えるためには時間とサポートが必要です。大人は、子どもたちが自分のペースで安心して成長できるように温かい見守りと適切なガイドラインを提供しなければなりません。

また、集団の中でうまくやっていくためには、自己主張だけでなく、他者の考えや感情を尊重する姿勢も欠かせません。共感力や協力の精神を育むことが、子どもたちの人間関係を豊かにし、集団内での信頼感を築くための基盤となります。特に、異なる背景や個性を持つ子どもたちが集まる学級においては、多様性を受け入れることが大切です。大人がその多様性を尊重し、正しい価値観を教えることによって、子どもたちは自分たちの違いをポジティブに捉えられるようになります。

一方で、地域社会のつながりの希薄化が進む中、子どもたちが集団での経験を積む機会も減少しています。しかし、園・学校や学童、児童発達支援・放課後等デイサービスは、このギャップを補う重要な役割を担っ

ています。地域社会の一員としての意識を持ち、学校生活を通じて社会性を育むことは、今後の人生においても大きな助けとなるでしょう。実際、学級での活動や行事、友達との関わりを通じて、子どもたちは協調性や忍耐力、リーダーシップを学びます。これらのスキルは、集団生活を円滑に進めるための土台となるのです。

新しい集団に馴染む過程で、子どもたちは困難に直面することもあります。その経験が彼らを成長させるのです。失敗を恐れずに挑戦し、他者と共に問題を解決する力を養うことで、将来的にはどんな集団でも柔軟に適応できる力を身につけることができます。ここでも、子ども一人ひとりに適したアプローチが求められます。教師や指導員の温かなまなざしと感性が不可欠です。

最後に、私たち大人の役割は、子どもたちが成長過程で何度も挫折することなく前進できるようサポートすることです。子どもたちの成長を見守り、適切なタイミングで励まし、時には困難を共に乗り越える姿勢が求められます。新しい集団に馴染むことは、単に「うまくやること」ではなく、自分自身を理解し、他者との関わり方を学んでいく貴重な経験であることを忘れてはなりません。

このように、子どもたちが集団生活に馴染むためにはさまざまな要素が関わってきますが、最も大切なのは「互いを尊重し、共に成長する」姿勢です。

子どもたちが安心して新しい集団に馴染み、豊かな成長を遂げられるよう、今後とも、子どもを取り巻くチームとして一緒に力を合わせていきましょう。



## <プロフィール>

中村 雅子（なかむら まさこ）

スマートキッズ発達支援研究所 所長  
元 帝京大学大学院教職研究科 准教授

スマートキッズ発達支援研究所は、教育と医療の連携を図り、日常生活に必要な基本動作を身に付け、集団への適応を図り、健康で生き生きと活躍するための優れた支援プログラムの開発と活用を目指します。多くの皆様にご活用いただければ幸いです。

私は、これまで、情緒障害教育研究会会長を5年間、設置校長を15年間務め、大学院で後進の育成に携わってきました。これまで、多くの保護者の皆様と出会い、率直なご意見を伺ってきました。その多くが、卒業後、就労し、社会の中で人とかわり、生き生きと生きていくために、十分な教育ができているだろうかという不安でした。私たちは、このような問いと真摯に向かい合い、より有効な支援プログラムを開発し、その効果的な活用法を提言していきたいと考えています。また、学校(園)と放課後等デイサービス等の連携を図り、子どもたちの健康づくりやキャリア形成、遊びや余暇など生活づくりにつながるプログラム開発を進めます。研究所員の皆様は、教育、医療、心理の経験豊かな専門家です。皆様と共に、楽しく、生きやすく、働きやすい社会を創っていきたいと思います。